第46回 徳島県小学校放送・情報教育研究大会

公開授業指導案集

平成28年11月11日（金）

阿波市立一条小学校

第３学年　学習指導案

第３学年　算数科学習指導案

３年１組　　名
指導者

１　単元名　　何倍でしょう

２　単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は，全体的に明るく活発で，学習にまじめに取り組もうとする。算数の学習では，計算練習をしたり，ワークの問題を解いたりする時に静かに集中して進めることができる。だが，話をよく聴いていないからか，指示されたとおりに活動が進まない児童もみられ，個別指導が必要な場面が多い。学習内容の理解力や技能の面でも個人差がやや大きく，習熟度に応じた指導の工夫を図る必要もある。表現力については，問題の解き方を進んで発表する児童がいる一方，みんなの前では声が弱々しく自信がなさそうな子も少なからずいる。自分の考えを表現したり，問題の解き方を説明したりする力を伸ばすことが課題の一つである。

このような課題に対応するために，単元「わり算」や「円と球」などにおける文章題の学習では自分の考えを図やことば，式を用いて説明できるようにしようと取り組んできた。一斉学習だけでなく，グループ学習やペア学習を取り入れ，気軽に意見を出し合うことを繰り返している。そこから少しずつ学級全体で話し合う活動につなげることによって，一人ひとりの表現力を伸ばしていきたい。そして，自主的に「教え合い・学び合い」ながら思考力・判断力を深め，問題解決を図ろうとする子どもを育てたい。

(2) 教材について

本単元は，３要素２段階の問題のうち，□×ａ×ｂの型の問題について，オペレータ（変量）に着目させて解決する方法を学習する。この問題の解決には，

① まず，□×ａを計算し，次にｂをかける方法　→（□×ａ）×ｂ

② まず，ａ×ｂを計算し，これを□にかける方法　→ □×（ａ×ｂ）の２通りがある。②の考え方は児童からは出にくいと思われるが，この方法による解決のしかたが身につくように進めていく。また，ここでは関係図を用いて求め方を考えるような展開とする。絵や図を用いて数量の関係を明らかにしていく方法は，思考を助け，問題の解決へとつながるものである。さらに，思考過程を表現する上でも大きな意味をもつ。考えの根拠を示す際に関係図を使って説明することで，より効果的に自分の考えを伝えることができる。絵や図，式などを用いて説明し，互いに伝え合う場面を段階的につくっていくことが重要である。このような問題解決の学習過程を通して「見通しをもち，筋道を立てて考える力」「表現する力」「進んで生活や今後の学習に活用しようとする態度」を育てたい。

(3) 研究内容との関わり

本校では「主体的・協働的な学習を通して，学びの質を高め合う子どもの育成」という主題のもと，ICT を効果的に活用した「教え合い・学び合う」協働学習の実践に取り組んでいる。その一つとして，子ども同士のコミュニケーションを基盤にしたペア学習を取り入れる。お互いに問

題解決の方法を話し合う場面では，タブレット PC（以下 TPC）やホワイトボード(以下 WB）を使った「表現し合う場」を設定することとした。

本単元では，TPC の画面上でテープ図を自由に動かせるようなシミュレーション教材を用いる。テープ図を繰り返し操作することを通して，３つの要素の関係をより簡単に確かめることができるものと考える。ここで TPC を活用するよさの一つは，同じ長さのテープをいくつでも何度でも動かして較べることができるという点である。また，ペア・グループ学習を行う際には，WB を積極的に使ってきた。WB は子どもたちの言語活動を活発にさせることができるツールの一つである。本単元では，主に関係図を WB に書き，それをもとに考えたり話し合ったりする活動を行う。TPC や WB を用いながら協働的な学習を展開することが，子どもたちの「表現力」「コミュニケーション力」を豊かにすることにつながると考えている。

このように，ICT を効果的に活用した「教え合い・学び合う」協働学習をすすめることによって，子どもたちの学習意欲を高め，主体的に学ぼうとする態度を育てるとともに，学びの質を高め合う子どもを育成していきたい。

３　単元の目標

オペレータ(変量）に着目し，何倍になるかを考えて問題を解くことができる。

４　単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	オペレータ(変量）に着目した考えを使って，日常の問題を解決しようとする。
数学的な考え方	オペレータ(変量) に着目し，何倍になるかを考えることができる。
数量や図形についての技能	オペレータ(変量）に着目し，何倍になるかを考えて問題を解くことができる。
数量や図形についての知識・理解	ａ倍のｂ倍が（ａ×ｂ）倍になることを理解できる。

［指導事項］

・乗法の順思考を組み合わせた３要素２段階の問題を，ａ倍のｂ倍がａ×ｂ倍になる考え方で解くことができるようにする。(A-(3)-ｳ)

５　指導計画（全３時間）

計　画	学　習　活　動	時間
第１時	□のａ倍のｂ倍を求める問題を，(□×ａ)×ｂの方法やほかの考え方で解決しようとする。	１時間
第２時	□のａ倍のｂ倍を求める問題を，□×(ａ×ｂ）の方法で解決する。	１時間(本時)
第３時	□のａ倍のｂ倍を求める問題を,何倍になるかを考えて,□×(ａ×ｂ）の方法で解決する。	１時間

６　本時の学習

(1) 目　標

□のａ倍のｂ倍を求める問題を，テープ図や関係図をもとにして □×（ａ×ｂ）の考え方で解決し，図やことば，式などを用いて表現することができる。

(2) 展　開

[　　] 教師の主な発問　　[　　] めあて　　・教師の支援　　○ ICT の活用

学　習　活　動	教　師　の　支　援	ICT
1　前時の復習をするとともに問題文を読み，課題をつかむ。	わかっていることは何ですか。求めることは何ですか。 ・わかっていること，求めることを問いながら，学習のめあてについて方向付ける。	
	関係図にかいて，何倍になるかを考えよう。 ○ TPC の画面上の絵や図をもとに関係図がかけるよう支援する。 ・「何倍になりそうか」考えさせ，問題解決の見通しをもたせるようにする。	TPC (ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ教材)
2　図をもとにして，求め方を考える。	テープ図や関係図をもとに求め方を考えましょう。 ○ TPC の図を操作しながら考えを進めさせる。 ・友だちと話し合いながら考えたことを WB に書くよう促す。	TPC (ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ教材)
3　求め方を図やことば，式などを用いて発表し合う。	どのように求めたのか，考えを発表しましょう。 ・WB に書いたことから図やことば，式などを用いて表現できるよう支援する。	実物投影機
4　本時の学習をふり返る。	・気づいたことやわかったことなどをもとに，本時学習のまとめをする。	

(3) 評価および指導の手だて

「十分満足できる」と判断される状況	□のａ倍のｂ倍が，□×（ａ×ｂ）倍で求められるわけを図やことば，式などを用いて表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	ａ倍のｂ倍が（ａ×ｂ）倍になることを，テープ図を用いて気づかせる。

第４学年　学習指導案

第４学年　理科学習指導案

４年１組　　名
指導者

１　単元名　　ものの温度と体積

２　単元について

（１）児童の実態

本学級の児童は，元気いっぱいで何事にも意欲的に取り組む子が多い。一方で，何をしたらいいのかわからない児童や，ワークなどの記入に友達の助けが必要な児童もいるため，普段からペア学習・グループ学習を多く取り入れ，様々な場面で話し合いを行っている。

理科の学習に対しても意欲的に取り組む子が多く，「春の生き物」の学習では，教室で昆虫を飼育したり，休み時間にもツバメや昆虫を探しに行ったりしていた。また，「電気のはたらき」の学習では，「モーターカーをもっと速く走らせるにはどうしたらいいか」と興味をもって実験に取り組んだり，友達と話し合いながら予想をたて，協力して実験の結果をタブレット PC（TPC）を使って記録したりしていた。しかし，実験や観察に興味をもって取り組むことはできるが，実験の目的を意識したり，結果を適切に記録して考察したりすることに課題がある。

（２）教材について

本単元は，「粒子」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「粒子のもつエネルギー」にかかわるものであり，中学校の「状態変化」の学習につながるものである。ここでは，金属，水及び空気の性質について興味・関心をもって追求する活動を通して，温度の変化と体積の変化とを関係付ける能力を育てるとともに，それらについての理解を図り，金属，水及び空気の性質についての見方や考え方をもつことができるようにすることがねらいである。

単元の導入として，栓をしたフラスコをあたため栓が飛ぶ現象を見せ，「閉じ込めた空気の性質」の学習と関連づけて空気に着目させ，あたためると空気がどうなるのだろうと興味をもって調べられるようにする。空気は目には見えないので，イメージしやすいように予想や結果を図に表す。予想をもとにグループ分けし，実験器具や方法を考えて実験させ，実験結果を整理して全体で交流する活動を通して，様々な予想の中からあたためると体積が大きくなるということを理解させたい。次に，水や金属についても温度によって体積が変化するのかという疑問について，見通しをもって調べられるようにする。その際，空気と比較することで体積の変化の大きさがそれぞれ違うということを理解できるようにしたい。最後に，身の回りの現象を探したり，説明したりする活動を行い，生活の中に利用されていることに気付くことができるようにしたい。また，初めて加熱器具やお湯を使って実験を行うので，やけど等安全に配慮して実験に取り組めるようにする。

（３）研究内容との関わり

本校では「主体的・協働的な学習を通して，学びの質を高め合う子どもの育成」という主題のもと ICT を効果的に活用した「教え合い・学び合う協働学習」の実践に取り組んでいる。

本単元では，ICT を効果的に活用した「話し合う活動」を多く行い，子どもたちが主体的に取

り組めるようにしたい。栓が飛ぶ理由について予想する活動では，前単元の「空気でっぽう」の動画を見せることでフラスコ内の空気に着目し，空気の温度変化と体積の変化を関連づけながら考えられるようにする。また，自分の予想を図や言葉で表し，グループや全体で交流する活動を通して，様々な考えを知り「どの予想が合っているのか」を意欲的に確かめることができるようにしたい。そして，自分たちの予想をもとに，グループで話し合いながら実験の器具や方法を選び，実験の計画を立てる活動を行う。また，その計画を全体で交流しながら見通しをもって実験が行えるようにする。実験を行う際には，動画で加熱器具の使い方などを見せておき，正しく安全に行えるようにし，TPC で実験の様子や結果を撮影しておき，後から確認したり他のグループと共有したりできるようにしておく。そして，他のグループと実験結果を共有して，様々な実験結果から温度の変化と体積の変化について考察し，学級全体で交流することで空気や水，金属の温度変化と体積の変化について理解を深められるようにしたい。

３　単元の目標

温度による空気・水・金属の体積の変化を，興味・関心をもって追求する活動を通して，空気・水・金属は，温度が高くなると膨張し，低くなると収縮するといった，温度の変化と空気・水・金属の体積の変化との関係を見い出し，中でも空気の体積変化は最も大きいことをとらえられるようにする。

４　単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①空気や水，金属をあたためたり冷やしたりしたときの現象に興味・関心をもち，進んでそれらの性質を調べようとしている。 ②温度によるものの体積変化を利用したものを日常生活の中に見つけたり，説明したりしようとしている。	①閉じ込めた空気をあたためたとき，栓が飛び出した理由についての予想をもち，自分の考えを表現している。 ②空気の温度変化と体積の変化を関係づけて考察し，自分の考えを表現している。 ③温度による水や金属の体積の変化について，空気の場合と比較して考察し，自分の考えを表現している。	①空気や水，金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化をとらえ，記録している。 ②加熱器具などを安全に正しく使って，空気や水，金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べている。	①空気や水，金属はあたためたり冷やしたりすると，その体積が変わることを理解している。 ②空気や水，金属はあたためたり冷やしたりすると，その体積が変わるが，その変化の大きさには違いがあることを理解している。

５　指導計画（全９時間）

［単元導入］	ものの温度と体積	１時間
［第１次］	空気の温度と体積	３時間　（本時２/３）
［第２次］	水の温度と体積	２時間
［第３次］	金属の温度と体積	２時間
［まとめ～ひろげよう］	身の回りのものについて	１時間

６　本時の学習

（１）目　標

・自分たちで考えた予想・実験計画をもとに見通しをもって実験し，空気をあたためたときの変化を記録・整理して自分たちの考えを表現することができる。

（２）展　開

[　　] 教師の主な発問　[　　] めあて　・教師の支援　○ＩＣＴの活用

学　習　活　動	教　師　の　支　援	ＩＣＴ
１ 本時の学習について見通しをもつ。	なぜ栓が飛んだのだろう。 ○栓をしたフラスコをあたためる実験を見せる。	
２ 予想・実験方法を確認する。	実験方法を確認しよう。 ○各グループの実験計画を確認させる。	
３ 実験をし，結果を記録する。	実験をして確かめてみよう。 ・記録の仕方や注意点を指示する。 ○実験結果を TPC のデジタルノートを使って，写真や動画で記録させる。 ○各グループで結果を整理しわかったことを書かせる。	TPC (デジタルノート)
４ 結果を交流する。	実験の結果を発表しよう。 ○各班で実験結果やわかったことを発表させる。 ・自分の班の結果と比べるようにさせる。	TPC・TV
５ 本時の学習を振り返る。	・気付いたことをや思ったことを発表させる。	

（３）評価および指導の手だて

「十分満足できる」と判断される状況	・自分たちで考えた予想・実験計画をもとに見通しをもって実験し，空気をあたためたときの変化を記録・整理して自分たちの考えを表現することができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・何を調べてまとめるとよいか実験計画を確認させる。 ・どのように記録・整理するとわかりやすいか助言する。

第５学年　学習指導案

第５学年　国語科学習指導案

５年１組　　名
指導者

１　**単元名**　図書室に「椋鳩十コーナー」を作ろう
　教材名　「大造じいさんとガン」他お気に入りの椋鳩十作品

２　**単元について**

（１）児童の実態

本学級の児童は，真面目な態度で学習に取り組むが，自分の思いや考えを言葉で表現することは苦手である。また，読書についても，文字の少ない図鑑やクイズ本などが多く読まれ，文学的な作品を読む児童は少ない。そこで，語彙を豊かにし，読書を習慣づけるために詩の音読や朝の読書に取り組んできた。６月の「自分たちの読書を広げ，つなげる」学習で，自分の好きな本の帯をタブレット PC（TPC）で作成し，本を薦め合った。TPC を活用することで，文章の推敲や色彩豊かな表現の工夫も短時間ででき，仕上がりも美しく意欲的に取り組むことができた。また，キャッチコピーの表し方や効果を学び，言葉で表現するおもしろさも味わった。しかし，読解力が不十分なため，作品から感じとったこととキャッチコピーにずれがあるという課題も出てきた。そこで，物語教材文「大造じいさんとガン」の学習に関連させて，学級文庫に「椋鳩十コーナー」を作り，朝の読書活動や日常の読書などでいつでも手に取ることができるようにした。また，絵本や動画などを利用して，画像や映像と本文中の登場人物の相互関係や心情表現，情景描写を重ねることで，苦手な児童も含め全員が読みを深められるようにした。このような活動によって，児童同士で椋鳩十作品について語り合ったり，読んだ本を薦めたりするようになり，興味を持って椋鳩十作品を読み，楽しもうとする雰囲気がクラス全体に見られ始めている。

（２）教材について

本単元では，図書室に「椋鳩十コーナー」を作り，作品を「本のショーウィンドウ」で４年生に紹介する言語活動を設定した。活動の目的や伝える相手を明確にすることで，積極的に多読し，作品の魅力を味わおうとする態度が育てられるほか，活動を通して得られる達成感や成就感が，今後の読書活動への意欲を高めることにつながるのではないかと考える。

椋鳩十は，動物をテーマにした数多くの作品を書いた作家である。作品の魅力の一つは動物の描写が科学的であり，動物の習性が詳しく書かれていることにあり，児童の興味・関心を引きやすい。また，「動物同士の愛情」，「動物と人間に生まれる愛情」など主題が感動的で分かりやすいことも大きな魅力である。さらに，詩的で美しく簡潔な表現や，児童が感想・意見や話題を発見しやすい叙述になっていることから，文学教材として指導しやすく，学習材として優れている。

これらを踏まえて，単元学習前の事前読書や継続的な並行読書を取り入れ，作品の感想を付箋に書いて本に貼ったり，読書ノートに記録したりしながら椋鳩十の作品を多読し，同じ作品で感想を交流させたり，お気に入りの作品を選ばせたりする。第１次で，「本のショーウィンドウ」の見本やその作り方を示し，学習の見通しを持って意欲的に活動に取り組めるようにする。第２次で，教材文「大造じいさんとガン」を読み深めながら，「本のショーウィンドウ」を作る方法を学び，お気に入りの作品の「本のショーウィンドウ」作りの準備をさせる。「本のショーウィンドウ」にあらすじ，心に残った場面・優れた叙述，登場人物の関係図，作品から伝わる作者のメッセージ，感想などを載せるために，作品を何度も読み見返すことで作品の読みを深め，自分の考えをまとめさせたい。第３次では，お気に入りの作品の「本のショーウィンドウ」を完成させ，それを「椋鳩十コーナー」に展示するグループごとに交流をして，椋鳩十が作品を通して伝えたかったことをキャッチコピーで表すようにする。そのために，「本のショーウィンドウ」をもとに，椋鳩十の作品を読み比べて自分の考えを広げたり，深めたりすることによって，椋鳩十作品の主題にせまらせたい。

（３）研究内容との関わり

本校は「主体的・協働的な学習を通して，学びの質を高め合う子どもの育成」という主題のもと，研究を進めている。本単元では，「ICT を効果的に活用した教え合い・学び合う協働学習」の実現のために，異なる作品を通して「グループで交流する場」「全体で共有する場」の２つの場を設定する。

「グループで交流する場」は，４人 1 グループで異なる作品を「本のショーウィンドウ」で紹介し，椋鳩十の伝えたかったことを話し合う場である。TPC に履歴を残しておいた「本のショーウィ

ンドウ」の学習内容を生かして，友達や自分の学習記録データを１画面上に集約することにより，自分の考えと比較しながら根拠を明確にして話し合うことができるので，作品に対する読みの深まりが期待できると考える。また，その話し合いで出された意見を WB（ホワイトボード）を活用して思考の過程を可視化しながらまとめていくことで，相手の意見を自分の考えに生かすといった構成型コミュニケーションを重視した教え合いや学び合いが可能になり，学びの質も高まるのではないかと考える。

「全体で共有する場」は，TPC を活用して，グループで椋鳩十の伝えたかったことを表したキャッチコピーを発表する場である。グループ１台の TPC に話し合い結果をまとめて発表することで，短時間で要領よく，かつ相手に分かりやすく伝えることができ全体の理解も深まると考える。また，椋鳩十が伝えたかったことを効果的に表現しているかどうかを考えて「いいね」の相互評価をさせることで，全員が参加して作品に対する自分の考えを広げたり深めたりできる。他者を評価することが自分の考えを見直す機会となり，学習の振り返りの充実にもつながると考える。

このように，TPC や WB の良さを生かして活用場面を分担することで，自分たちの考えを共有し共同で課題解決に向けて話し合いが円滑になされるため，児童の参加意欲や仲間意識が高められ，学習活動にも一層主体的に取り組むことができると考える。

３　単元の目標

（１）学習者の活動目標

図書室に「椋鳩十コーナー」を作ろう。

（２）指導目標

○作品を紹介するために，椋鳩十作品を読み比べながら，登場人物の相互関係や心情，情景描写などの優れた叙述に着目し，自分の考えをまとめることができるようにする。

４　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読　　む　　能　　力
○「椋鳩十コーナー」を作る学習に関心を持ち，椋鳩十の作品を進んで読もうとしている。	○作品を紹介するために，登場人物の相互関係や心情，メッセージが表現されている行動や会話，情景などの優れた叙述に着目して，「本のショーウィンドウ」に自分の考えをまとめながら読んでいる。 ○「本のショーウィンドウ」の紹介を通して，各作品を比較しながら，物語について考えたことをグループや全体の中で交流することによって，自分の考えを広げたり深めたりしている。

５　指導計画　（全１７時間）

第１次　図書室に「椋鳩十コーナー」を作る計画を立てる。

・学習計画を立てる。　１時間

・椋鳩十作品を紹介する「本のショーウィンドウ」の作り方を示す。　１時間

第２次　「大造じいさんとガン」の「本のショーウィンドウ」の項目内容を作り，その読みを生かしてお気に入りの作品の「本のショーウィンドウ」の準備をする。

・作品の構成を考え，大造じいさんと残雪との関わりなど登場人物の相互関係や心情の変化を手がかりにしながらあらすじと登場人物関係図をまとめ，その読みを生かしてお気に入りの作品のあらすじと人物関係図の下書きをする。　３時間

・「大造じいさんとガン」の心に残った場面や優れた叙述を見つけ，自分の考えをまとめ，その読みを生かしてお気に入りの作品の心に残った場面や優れた叙述を見つけ，自分の考えを下書きする。　２時間

・「大造じいさんとガン」から伝わる作者のメッセージを考え，その読みを生かしてお気に入りの作品から伝わる作者のメッセージの下書きをする。　１時間

・「大造じいさんとガン」の「本のショーウィンドウ」の項目内容について意見交流をし，グループで作者が伝えたかったことをキャッチコピーで表す。　１時間

第３次　図書室に「椋鳩十コーナー」を設け，お気に入りの椋鳩十作品の「本のショーウィンドウ」を展示したり，キャッチコピーをつけたりする。

・お気に入りの作品の「本のショーウィンドウ」を仕上げる。　３時間

・「本のショーウィンドウ」を交流し合うことを通して，椋鳩十が作品を通して私たちに伝えたかったことをキャッチコピーで表す。　３時間（本時３／４）

６　本時の学習

（１）目　標

①学習者の活動目標

椋鳩十が伝えたかったことをキャッチコピーで表そう。

②指導目標

グループで「本のショーウィンドウ」や作品を読み比べながら，椋鳩十が伝えたかったことをキャッチコピーで表し，全体で発表することにより，自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

（２）展　開

［　　］教師の主な発問　［　　］めあて　・教師の支援　○ ICT の活用

学　習　活　動	教　師　の　支　援	ＩＣＴ
１椋鳩十が伝えたかったことについて自分の考えを紹介する。	前時の学習を振り返り，椋鳩十が伝えたかったことについて自分の考えを紹介しよう。 ・グループで自分の考えを紹介し合うことで，意欲的に学習に取り組めるようにする。 椋鳩十が伝えたかったことをキャッチコピーで表そう。	TPC WB（大）
２椋鳩十が伝えたかったことをキャッチコピーで表す。 (ちがう作品を選んだグループ)	グループで考えをまとめ，椋鳩十が伝えたかったことを，キャッチコピーで表そう。 ・TPC の学習記録を参考に WB を活用して思考の過程を可視化させることで，相手の意見を自分の考えに生かしながら話し合いが深まるようにする。 ○話し合った結果を TPC を活用してまとめ，発表の準備をさせる。	WB（大） TPC
３グループで考えたキャッチコピーを発表する。（全体） ４学習のまとめをする。	グループで考えたキャッチコピーを発表しよう。 ○ TPC を活用して，伝えたいことを強調，拡大して示すことにより，相手に分かりやすく伝えるようにする。 ・椋鳩十が伝えたかったことを効果的に表しているかどうかを考えて「いいね」の評価をさせ，その評価の理由を考えさせることで，自分の振り返りにつなげるようにする。(相互評価) 今日の学習の振り返りをしよう。 ・友達や自分の考えのよさに気づいたり，自分の考えが変容したりしたことを書けるように言葉がけをする。	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ TPC マイク WB（大）

（３）評価および指導の手だて

「十分満足できる」と判断される状況	・グループで「本のショーウィンドウ」や作品を読み比べながら作者が伝えたかったことをキャッチコピーで表し，全体で発表することにより，椋鳩十が作品を通して伝えたかったことについて自分の考えを広げたり，深めたりしている。
「おおむね満足できる状況」を実現するための指導	・「本のショーウィンドウ」の心に残った場面や優れた叙述（色・行動・会話），作者のメッセージ・感想などを手がかりに，作品に共通するメッセージについて考えるように助言する。

第６学年　学習指導案

第６学年　総合的な学習の時間（人権）学習指導案

６年１組　　名　指導者
６年２組　　名　指導者

１　単元名　ネットを賢く使おう

２　単元設定の理由

（１）児童の実態

本学年（男子１８名，女子２１名）は，優しくて素直な児童が多く，任せられた仕事や，しなければいけない課題に対しては責任を持ってきちんとやり遂げる。その反面，何事にも受け身がちで，指示されるまで動かなかったり，自分の力を過小評価してチャレンジしなかったりと，自分で考え進んで行動しようとする児童は少なかった。そこで，まず，授業改善を図り，対話的な学習形態を意図的に取り入れて，互いに意見を伝え合い，深め合いながら，子どもたち一人一人が自分の考えを持って主体的に学習に取り組むことができるように努めている。また，子どもたちは，運動会や異学年活動等の大きな行事を通して，学校のリーダーとして活躍することができたという成功体験を積み重ねていくことで，少しずつではあるが自信を持って取り組む姿が見られるようになり，個人としても，６年生全体としても成長を感じている。

一方，情報社会に生きる私達にとって，身の回りに溢れる様々な情報ツールは日常生活から切り離すことのできないものになっており，児童の普段の生活においても同様のことが言える。４月に６年生を対象にした情報に関するアンケート結果から，自分のスマホやタブレット PC（TPC）を持っている児童は少数であったが，ほとんどの児童が，親のスマホや家にある PC 等を使って，メッセージのやり取りをしたり，オンラインゲームやネット動画で遊んだりしていることが分かった。また，家庭訪問や個人懇談の際には，メール等のやり取りによって夜遅くまで起きていたり，相手のことを考えない書き込みによって友達とのトラブルの原因になったりしたことを伺った。

自分の命や安全を守るためには，情報社会の光の部分と共にその影の部分をしっかりと理解したうえで，様々な情報ツールを賢く利用できる力を身につけることが必要になってくる。そのためには，計画的な指導のもとで情報モラルに関する基礎的な知識を理解させながら，情報社会を生き抜いていくための知恵を自分に必要なものとしてきちんと学ばせる必要があると切実に感じている。

（２）単元について

本単元では，様々な情報ツールの特徴を正しく理解させながら，これからの情報社会を賢く生きていくための素地を養いたいと考えている。

第１次では，まずケータイ・スマホ安全教室を実施して，インターネットの仕組みや特徴について学んだ。同時に子どもたちは，携帯電話やスマホを使用する際のルールやマナーなど，情報モラルに関する基礎的な知識についても学習した。春休み中に SNS による人間関係のトラブルがあったと聞いていたので，安全教室実施後に SNS を正しく利用する方法について考えさせた。その中で，実際にメールのやり取りを体験させたり，トラブルの事例について意見を交流させたりしながら，文字コミュニケーションのメリット・デメリットを理解させ，互いに気持ちよく生活しようとする態度の育成に努めた。

第２次では，個人情報の漏洩に関するいくつかの事例を取り上げた。ここでは，まず何が個人情報にあたるのかを再確認した。そして，どうして漏洩したのか，何が問題だったのかについて意見を出し合いながら，考えを深めさせ，SNS を使用する際のトラブルから回避できる実践的な力の育成に努めた。

第３次では，『ネット依存』について取り上げる。まず，ネット依存とはどういう状況なのかについておさえたうえで，健康面や安全面から見た依存の恐ろしさについて理解させたい。次に，依存しないための方法について互いに意見を交流し，自分の考えを深めさせたい。最後に，愛知県刈谷市の条例をもとして，「使用して良い年齢」，「フィルタリングの必要性」，「使用す

る時間」の３つの視点から自分の命や安全を守るためのルールをつくることで，ネットを賢く利用していくための自分なりの解決策が導けるようにしたい。

（３）研究内容との関わり

本校では，「主体的・協働的な学習を通して，学びの質を高め合う子どもの育成」という主題のもと，ICT を効果的に活用しながら，「教え合い・学び合う協働学習」についての研究を進めている。

情報活用能力の個人差への対応の工夫としては，体験的・対話的な学習の中で，意見を交流し合いながら，新しい考えや方法に気付き，互いに高め合うことができるようにしていきたい。

また，子ども自ら主体的に情報モラル学習に取り組めるようにするために，本単元では，疑似体験やケーススタディを取り入れる。体験活動や自分ならどうするかを考える学習を通して，解決が困難な問題に直面しても，自分なりの対処法で解決に導くことができる力を身につけさせたいと考えている。

なお，指導にあたっては，ホワイトボード（WB）や TPC を効果的に活用し，話し合い活動を活性化させ，自分の考えを伝えるだけの伝達型コミュニケーションではなく，相手の意見を聞いて自分の考えに生かすといった構成型コミュニケーションが図られるよう配慮したい。

３　単元の目標

○　ネットを利用する際の基本的な知識やマナーを身につけさせる。
○　互いに意見を交流しながら自分の考えを深めさせる。
○　ネットを賢く利用しようとする実践的な力を養うとともに，自他の生活の向上のために行動していこうとする態度を育てる。

４　学習計画（全２２時間）↑　　↓

○これまでの学習

第１次　さわやかに気持ちを伝えよう（５時間）

・スマホやケータイを使うときのルールやマナーについて知ろう… 1 時間
・アサーティブな言い方をしよう… 1 時間
・メールのやり取りを体験してみよう（1 組）… 1 時間
・コミュニケーションアプリってどんなもの？（2 組）… 1 時間
・気持ちのよいコミュニケーションについて考えよう… 2 時間

第２次　個人情報は自分で守ろう　（５時間）

・個人情報って何だろう… 1 時間
・SNS の特徴について知ろう… 1 時間
・SNS の情報モラル講座を体験してみよう（1 組）… 1 時間
・こんな場合，どうするか考えよう（2 組）… 1 時間
・トラブルに遭わないようにするためにはどうすれば良いか考えよう… 2 時間

○現在の学習

第３次　ネット依存にならないために　（７時間）

・ネット依存って何だろう… 1 時間
・愛知県刈谷市の条例をもとにして，自分のきまりを考えよう… 1 時間
・自分が考えたきまりの根拠となる資料を探し，プレゼンの準備をしよう（1 組）… 2 時間
・自分が考えたきまりの根拠となる資料を探し，考えを整理しよう（2 組）… 2 時間
・ネットを使ううえでのきまりについて話し合おう… 3 時間（本時 3 ／ 3）

○これからの学習

第４次　学んだことを伝えよう　（５時間）

・人権学習発表会の計画を立てよう… 1 時間
・人権学習発表会に向けて準備をしよう… 4 時間

【単元に関わる教科等・行事】

・国語科「学級討論会をしよう」（8 時間）
・道徳「ネチケット」（1 時間）
・社会科「憲法とわたしたちの暮らし」（5 時間）
・道徳「図書館のきまり」（1 時間）
・家庭科「共に生きる生活」（4 時間）
・学校行事「人権学習発表会」（3 時間）

５－１　本時の学習（６年１組）

（１）　目　標　　ネット依存について資料をもとに話し合うことを通して，自分なりのきまりを持って，よりよく生活していこうとする意欲を高める。

（２）　普遍的な学習のテーマ　自他の尊重
　　個 別 人 権 課 題 名　インターネットによる人権侵害

（３）　展　開
□ 教師の主な発問　■ めあて　・教師の支援　○ ICT の活用

学 習 活 動	教 師 の 支 援	ICT
1　前時を振り返り，本時の学習について見通しをもつ。	愛知県刈谷市の条例をもとにして，ネットを使うえでのきまりを考えよう。 ・前時までを振り返り，今日は「使用する時間」について話し合うことを確認する。	
2　「使用する時間」について互いに意見を出し合う。	次に使用する時間について話し合おう。 ・根拠を明らかにして発言するように伝える。 ・自分の考えと比べながら，聴くように伝える。	TPC プロジェクタ
3　学習する前に各自で考えた「使用する時間」についてのきまりを再考する。	前に決めた「使用する時間」についてのきまりをもう一度考え直してみよう。 ・自分の考えが変わっても変わらなくても，その理由が説明できるように伝える。 ・ワークシートに書いた人は，TPC で撮るように伝える。	TPC
4　再考したきまりを交流する。	どんなきまりにしたのか発表しよう。 ・変わった点も，変わらなかった点も必ずその理由を付けて発表できるように伝える。	TPC プロジェクタ
5　本時の振り返りをする。	・ネットをどのように使用していくか自分なりの考えを持たせる。	

（４）　評　価
・TPC を活用して根拠を明らかにしながら伝え合うことにより，自分のきまりづくりに生かそうとすることができたか。　【技能的側面】
・互いに意見を交流することにより，自分も友達も大切にしながらよりよく生活していこうとする意欲を高めることができたか。　【価値的・態度的側面】
・依存しないためには，ネット依存について正しく理解したうえで，自分なりのきまりを持ち，それを守って行動していくことが大切であることに気付くことができたか。
【知識的側面】

５－２　本時の学習（６年２組）

（１）　目　標　　ネット依存について資料をもとに話し合うことを通して，自分なりのきまりを持って，よりよく生活していこうとする意欲を高める。

（２）　普遍的な学習のテーマ　自他の尊重
　　個 別 人 権 課 題 名　インターネットによる人権侵害

（３）　展　開
　　□ 教師の主な発問　□ めあて　・教師の支援　　○ ICT の活用

学 習 活 動	教 師 の 支 援	ICT
1　前時を振り返り，本時の学習について見通しをもつ。	愛知県刈谷市の条例をもとにして，ネットを使ううえでのきまりを考えよう。 ・前時までに話し合ったことを振り返りする。	
2　NHK 放送番組「メールと依存症」を視聴する。(8 分 10 秒)	「メールと依存症」の番組を見てみよう。 ・依存症になった原因をメモするよう伝える。 ・原因が今日の議題「使用する時間」と関連していることを気付かせる。	PC プロジェクタ 放送番組 ケータイ社会の落とし穴 「メールと依存症」
3　「使用する時間」についてグループで意見を出し合い，交流する。	次に使用する時間について話し合おう。 ・根拠を明らかにして発言するように伝える。 ・自分の考えと比べながら，聴くように伝える。 ・「なるほど。」と感じた意見には，赤で下線を引くよう指示する。	WB（大） WB（小）
4　学習する前に決めた「使用する時間」を再考する。	「使用する時間」について，もう一度考え直してみよう。 ・考えが変わった人も，変わらなかった人も，その理由が発表できるように伝える。	プロジェクタ 実物投影機
5　本時の振り返りをする。	・ネットをどのように使用していくか自分なりの考えを持たせる。	

（４）　評　価
- WB を活用して根拠を明らかにしながら伝え合うことにより，自分のきまりづくりに生かそうとすることができたか。【技能的側面】
- 互いに意見を交流することにより，自分も友達も大切にしながらよりよく生活していこうとする意欲を高めることができたか。【価値的・態度的側面】
- 依存しないためには，ネット依存について正しく理解したうえで，自分なりのきまりを持ち，それを守って行動していくことが大切であることに気付くことができたか。【知識的側面】